《福井市の公民館に思う》

公民館と共に歩んで

福井市教育委員　元中央公民館主事　元社南公民館主事

佐　藤　藤　枝

昭和54年、社公民館の主事に推薦され、56年度からは“社南と社北”に分かれた社南公民館に配属されました。新館長と新主事１名を迎え三人で、新公民館の土台づくりに昼夜奮闘。参考資料もない無垢の状態から学級・講座と地区行事、それに関わる会議の開催、各種団体の準備・発会の手伝いなど多岐に渡る業務は大変でした。それに加えて、当時としては珍しい地域づくり活動にも力を入れてきました。人口増で新しく地域が誕生するということは、新旧住民の葛藤が地域課題としてあり、地域の意識とまとまりが必要でした。地域づくり活動の核となってもらう壮年会づくり、その学習活動、年層別団体（子ども会、青年会、婦人会、老人会）を網羅したふるさとづくり協議会の組織づくり、その具体的・段階的活動で共通の体験をし、人を繋げるきっかけづくりに奮闘する毎日でした。休館日には、仲間と一緒に勉強会（つむぎの会）を立ち上げ、主事同志の研鑽を積んできました。そこでの福井大学柳澤先生のアドバイスや事業の捉え直しは、主事のあるべき姿に気づき、多くを学ばせていただくことができました。

そして10年、更に人口増で地区が増えることになり、その準備をし、平成３年４月に社西公民館が誕生。それを機に私は中央公民館に異動しました。

主事を１名増やして中央公民館を対外的に分かりやすくするための異動でした。順化公民館の事務所と一緒だった事務所を隣の会議室へ移し、二つの公民館が明確になりました。２名の社会教育指導員の先生方と若い先輩主事さんの４名でのスタートでした。中央公民館における教育事業の一部と、地区公民館との連絡調整役として市公民館連絡協議会の事務局を担当し、地区公民館の主事とは違った役割を意識しました。

中央公民館は、平成19年度から勤労婦人センターと勤労青少年ホーム・青年の家の事業を引き継ぎ、事業・職員ともに拡充してアオッサに移転しました。平成22年に退任するまで通算30余年の私のあゆみは、それぞれの公民館の節目に遭遇し業務は倍増しましたが、貴重な体験と幅広い方々との出会いがあり、多くを学ばせていただきました。字数の関係で、その都度の具体的な苦労や喜び、活動の展開などは紹介できませんが、“主事は、学習や活動のいろいろな手法・プロセスを大切にしながら、よりよい人間関係をつくり、よりよい地域をめざす活動を援助していく責務がある”をいつも基本においてきました。課題を抱えながらも努力してきた私の公民館でのあゆみ、多くの方々に支えられ一緒に汗を流し悩み喜んだ体験は、私の誇りであり財産となっています。